



上館甲から見える要害山（上館甲）

要害山は、佐々木三郎盛綱が源平合戦の折に、戦の功労として、越後の加地庄の地頭職に任ぜられた時の居城である加地城があった山です。また、佐々木はその後に姓を加地と改め、時代は下って上杉家の家督争いの折りに城主の加地秀綱が、景虎側に味方し、景勝側に攻められ落城しました。そのときに戦火に焼かれた米俵の米が炭化し、それが今でも焼米として赤土から黒い米粒が出てくるといいます。

城郭は、大規模かつ、要害堅固でその跡を今に残しています。そのところから、山の名前を要害山とっています。